



環境学部

Faculty of Environmental Studies

「環境学科」



環境学部長メッセージ

遠藤 由美子 特任教授

専門 建築・インテリア意匠設計、環境建築、福祉住環境

的確な判断力と
一生学び続ける力を身につけよう

環境学部では、環境問題について低年次で全体像を理解したうえで専門的な分野に入っていきます。さらに分野を横断した広い視野を養うために、経営学、AI・数理・データサイエンス、英語実践、地域実践の副専攻を履修できることも特色です。学修中での的確な判断力を身につけられるように、社会で活躍するための実践力を養う体験型の授業を多く取り入れています。実際の体験の中から創造的な解決能力は生まれます。学生の皆さんには「失敗」や「予測外の出来事」からも多くを学んでほしいと思います。また、議論の場では、相手の意見に素直に耳を傾ける対話を心がけましょう。そのような姿勢が、学びにおける成長と社会課題の解決に繋がります。生きることは学び続けることです。一生学び続けられるための基礎知識と対応力を本学で身につけてください。

模擬授業 公開中!

大学の授業の様子、環境学部の学修内容を模擬授業動画として公開しています。ぜひ視聴ください。

公式 YouTube チャンネル

特別サイト

環境学部

学びの特徴

- 環境問題と専門分野**
環境学部では、自然環境保全、循環型社会形成、人間環境という3つの側面から環境について考えます。1年次は環境学を幅広く学び、3年次以降はそれぞれの専門分野についてより深く学修していきます。
- 現場に参加**
大学で学術的な研究をするだけでなく、実際に現場が抱えている課題に触れることで実践的な知識を身に付けることができます。企業、地方公共団体へ調査・研究した結果の報告、さらには課題に対する提案を行うこともあります。
- 環境学フィールド演習**
フィールド活動の基礎的なノウハウを修得し、体験を通して理解を深めます。そのため、3つの専門分野(自然環境保全、循環型社会形成、人間環境)の領域を順次、バランスよく取り上げて学びます。
- 氷ノ山登山**
環境学部の1年生約150名で、鳥取県と兵庫県の県境にあり、中国地方では大山に次ぐ高峰である標高1,510mの氷ノ山に登ります。フィールド演習として、教授陣とともに植物や地質などの観察を行いながら、豊かな自然を楽しみます。

身について社会に貢献したい
実験や研究の方法を身につけて

身近な課題を物質の化学分析を通して解決したい

農村などの魅力を活かして地域づくりに貢献したい

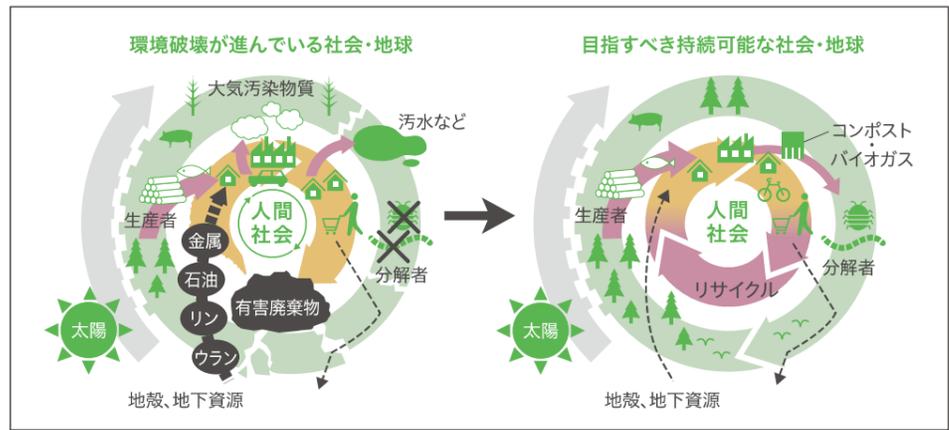
学ぶ楽しさを子どもたちに伝えていきたい

自然環境保全分野

循環型社会形成分野

人間環境分野

教職課程



持続可能社会の概念図

凡例

- 自然環境保全系科目
- 循環型社会形成系科目
- 人間環境系科目

「環境」の専門知識と技術を学び 社会のために提案・実践できる能力を養います

「環境」について実践的に学ぶフィールドワークに1年次から取り組むことができるカリキュラムとなっています。また、自然環境保全、循環型社会形成、人間環境など幅広い分野の環境関連科目も用意。「人と社会と自然との共生」に向けた「環境」問題解決能力をはじめ、行動力やコミュニケーション力といった将来へつなげる人間力にも磨きをかけます。

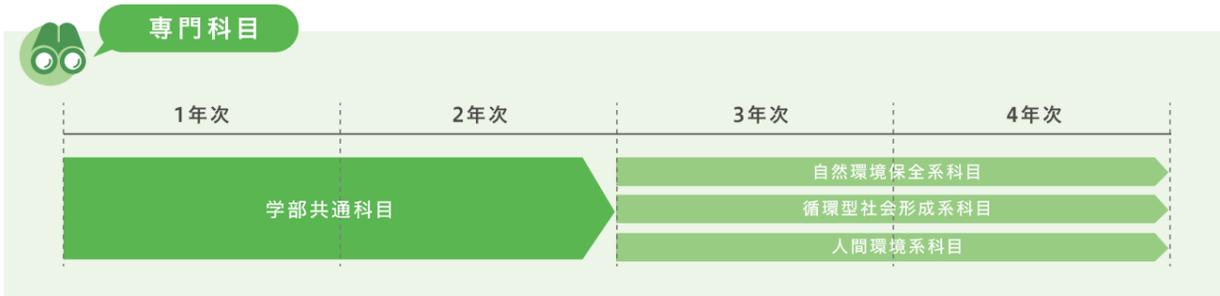


環境学部

環境学部

学びのポイント

Point1 多様な分野、研究内容に触れることで興味・関心が広がります。	Point2 自然へ、田舎へ、まちへフィールドワークが充実しています。	Point3 調査・実験・分析の技術を実践的に身に付けることができます。	Point4 教員との密なコミュニケーションにより学修をサポートします。
--	---	--	--



学修分野

学修分野	学びの内容	進路イメージ	取得目標資格
自然環境保全	動物、植物、大気、水、地形、地質を中心に自然環境のメカニズムについての基礎知識を学び、地上気象観測や衛星観測を通じたモニタリング技術などの応用技術を学びます。	民間企業や公共団体等で、自然環境保護、環境アセスメントや農林水産業に関連する業務に従事、あるいは大学院へ進学し研究者を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ●環境計量士 ●気象予報士 ●環境カウンセラー ●森林インストラクター など
循環型社会形成	廃棄物処理、環境に優しいバイオマスエネルギーの有効活用について考察します。また、行政や社会制度も学ぶことで、総合的に循環型社会の形成について学びます。	エネルギーや産業廃棄物関連の民間企業のみならず、あらゆる業種において環境に関連する業務を担います。	<ul style="list-style-type: none"> ●公害防止管理者 ●廃棄物処理施設技術管理者 ●ピオトップ管理士(計画管理士) ●3R・低炭素社会検定 など
人間環境	人間が快適な生活をするために作り出してきた住まいをはじめ、都市、まちづくり、景観、文化などの人間と社会をとりまく環境について、自然と共生するあり方を学びます。	民間企業や公共団体等で、住まい、都市、景観、まちづくり、地域振興などの計画・設計等の業務を担います。	<ul style="list-style-type: none"> ●技術士補(環境部門・建設部門) ●インテリアコーディネーター ●CAD検定 など
教職課程	教員免許を取得するには、環境学部の卒業要件を満たすのに加えて、教職課程専門科目、教育実習、その他免許取得のために必要な科目を修得する必要があります。	環境問題に関する深い知識と基本的理解を備えた、中学・高校の理科担当教諭を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ●中学・高校教諭一種免許状(理科)

人間形成科目

科目名	1年次	2年次	3年次
人間形成科目	【総合教育科目】 ○現代と人権 ○日本国憲法 ○鳥取県 ○現代社会と健康 ○スポーツ実技 ○文章作成1・2 ○数理基礎 ○特別講義A ○特別演習A～C ○文学 ○地理学入門 ○SDGs基礎 ○環境学概論 ○経営学入門 ○現代経済学入門 ○統計学入門 【外国語科目】 ◎Intensive English1～4 ○英語活動A・B ○海外英語研修A～C ○海外語学実習A・B ○基礎英語能力養成A・B ○応用英語能力養成A・B 【情報処理科目】 ◎情報リテラシ1・2 【キャリアデザイン科目】 ◎キャリアデザインA ○基礎インターンシップ 【総合演習科目】 ◎プロジェクト研究1・2	【総合教育科目】 ○特別講義B ○離散数学 ○データ構造とアルゴリズム ○計算機の基礎 ○AMD実践演習A・B ○国際関係入門 ○経済史 【外国語科目】 ◎Intensive English5～8 ○中国語1・2 ○韓国語1・2 ○ロシア語1・2 ○Advanced English1～8 【キャリアデザイン科目】 ◎キャリアデザインB 【総合演習科目】 ◎プロジェクト研究3・4	【総合教育科目】 ○麒麟の知 ○AI ○画像処理 ○AI実践演習 ○パターン認識 【外国語科目】 ○英語特別講義A～D

◎…必修 ●…選択必修 ○…選択・自由

専門科目

科目名	1年次	2年次	3年次	4年次
学部共通科目	<ul style="list-style-type: none"> ●自然環境保全概論 ●循環型社会形成概論 ●人間環境概論 ○環境と文明 ○微分積分学 ○線形代数学 ○化学概論1・2 ○物理学概論1・2 ○生物学概論 ○地学概論 ○環境学フィールド演習 	<ul style="list-style-type: none"> ○人間居住論 ○環境と倫理 ○環境情報学概論 ○環境物理学 ○環境法概論 ○環境行政論 	<ul style="list-style-type: none"> ○地球観測学 ○環境データベース論 ○環境アセスメント概論 	
自然環境保全系科目	<ul style="list-style-type: none"> ○植物学概論 ○化学実験 ○地学実験 ○生物学実験 ○物理学実験 ○動物行動学 ○生態学基礎 ○生態学概論 ○海洋環境学 	<ul style="list-style-type: none"> ○水域生態学 ○地球システム学 ○気象学概論 ○バイオクリマ入門 ○環境地質学 ○森林科学概論 ○水環境学 ○自然環境保全実習・演習A 	<ul style="list-style-type: none"> ○保全生物学 ○漁業資源保全学 ○環境ゲノム科学 ○森林資源管理論 ○森林政策論 ○基礎土壌学 ○環境土壌学 ○自然環境保全実習・演習B 	
循環型社会形成系科目	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物学入門 ○環境とエネルギー ○廃棄物マネジメント学 ○応用化学概論 ○3R工学 ○水環境工学1・2 ○応用微生物学概論 ○循環型社会形成実習・演習A 		<ul style="list-style-type: none"> ○大気汚染防止 ○廃棄物処理技術 ○水処理技術 ○バイオマス変換論 ○有機資源利用学 ○地域エネルギーシステム論 ○循環型社会形成実習・演習B 	
人間環境系科目		<ul style="list-style-type: none"> ○グリーンデザイン ○自然環境と文化 ○住まいと建築の歴史 ○居住インテリア計画 ○都市居住計画 ○人間環境実習・演習A 	<ul style="list-style-type: none"> ○都市の自然環境形成 ○景観計画と保全管理 ○都市の持続的発展 ○農村の持続的発展 ○ジオパークと地域づくり ○地域生活文化論 ○歴史遺産保全論 ○エコハウス計画 ○福祉住環境計画 ○途上国の都市発展 ○自然素材と環境 ○木質構造計画 ○人間環境実習・演習B 	
演習科目	○環境特別演習	○鳥取グリーンベンチャー	○インターンシップ ◎環境学ゼミ・演習1・2	◎卒業研究
教職課程科目	<ul style="list-style-type: none"> ○理科指導法1・2 ○教育原理 ○教職論 ○教育心理学 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の理論と実践 ○教育課程論 ○教育の方法と技術(ICT活用含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ○理科指導法3・4 ○教育の制度と経営 ○教育行政学 ○道徳教育の理論と指導法 ○特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 ○生徒・進路指導論 ○教育相談 ○環境教育論 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育実習事前事後指導 ○教育実習(中) ○教育実習(高) ○教職実践演習(中・高)

※上記科目は2023年4月現在のものです。変更になる場合があります。

自然環境保全分野

自然環境の成り立ちについて基礎を中心に学修します。自然環境に関する幅広い知識を持ったうえで、将来、自然環境保護や環境アセスメント関係、あるいは農林水産業に関連する分野での活躍を希望する学生や、さらに大学院へ進学して自然環境についてより深く学ぶことを希望している学生向けです。

- ① 大気、水、地形、地質など自然環境のメカニズムを学びます。
- ② 動物、植物の生態系の視点から生物に関する知識を修得します。
- ③ 森林、河川、海岸などのフィールドでの調査・演習を重視しています。

Myゼミレポート

角野ゼミ

金梨花さん(大阪府出身)

砂漠に関する論文を読み、河川水質のモデル化という実験も

私は砂漠に興味があったため、3年前期では砂漠における水の保持に関する論文を読みました。後期では実験に取り組んだのですが、日本で砂漠の実験は難しいことから、先生の研究である河川水質のモデル化のお手伝いをしました。川の水を複数の場所で採取して成分を比較することで、地形の変化や周辺の土壌・植物・岩石などを予測し、モデル化するという実験です。この経験を通して、私たちの生活に役立っているさまざまなものがいかに多くの実験の積み重ねによって成り立っているかを知りました。将来は、子どもたちとかかわることで「ちょっと頑張ってみようかな」と思ってもらえるような、努力することの尊さを伝えられるような教員をめざしています。そのためにも研究にも力を入れて学生生活を送りたいと思います。

▲正確なデータを蓄積することが重要になります

特別サイト

Pickup研究室

土壌から過去と現在を知ることで未来予測につなぐ

私の研究には2つのトピックがあります。1つは地球温暖化にかかわる土壌中の有機物に関する研究です。長い年月をかけて蓄積された有機物は、さまざまな人間活動によって減っていきます。有機物は分解すると二酸化炭素が出るため、これが大気中にどれくらい放出されるようになるのか予測します。もう1つは土壌侵食に関する研究です。土壌が水系にどのように移動するのか、上流域の変化をとらえて明らかにする方法を探索しています。このように土壌、つまり過去と現在をよく知ることで未来を予測したいと考えています。

特別サイト

角野 貴信
准教授
土壌学
生物地球化学

▲森の中で黒ボク土を調査中

Pickup研究室

サンゴから地球の過去、現在、未来を読み解く!!

古生物の中でも特に専門的に研究しているのがサンゴです。あまり知られていませんが、サンゴは温暖な浅い海だけでなく、冷たい海や深海にも生息しています。私はそのような冷たい海や深海にすむサンゴを研究し、過去から現在までの地球環境を調べています。最近では、第61次南極地域観測隊にも参加し、南極にすむサンゴの研究を始めました。このようなサンゴはまだまだ分かっていないことだらけですので、私の研究室では様々な研究機器を駆使してその謎を解き明かそうとしています。

特別サイト

徳田 悠希
准教授
古生物学
深海生物学

▲南極で調査中

循環型社会形成分野

持続可能な社会の構築に求められる再生可能エネルギーの活用方法や廃棄物処理などについて、基礎から応用までを一貫して学びます。エネルギー関連や産業廃棄物処理関係の民間企業のみならず、一般企業や地方自治体の環境関連の部署での活躍を希望する学生向けです。

- ① 天然資源の活用、廃棄物処理、リサイクルについて研究します。
- ② 上記の工学的技術分野を中心に行政や社会制度についても探求します。
- ③ eco検定など、環境に関する資格取得が目標とする講義を実施します。

Myゼミレポート

戸苅ゼミ

石井 宏樹さん(兵庫県出身)

メタン発酵をエネルギーに活用。研究はワクワク感の連続

下水汚泥などの有機物を微生物が分解する際発生するメタンガスをエネルギーとして活用しよう、という研究をしています。この研究分野には、まだわかっていないことも多く、それだけにワクワク感や新しいことに挑戦している面白さがあります。大切なのは好奇心を持つことです。研究には生物のことだけでなく、物理や化学などさまざまな分野の知識が必要になってきますが、知識を幅広く身につけることで「この知識がこういうふうに関与するの？」という発見があります。またゼミでは学生が発表する機会も多く、人に説明することで理解が深まっていきます。自分が面白いと思うことを見つければ、自ずと目標は定まります。そして目的意識を持って行動すれば、学生生活を充実させることができると思います。

▲必要な知識やスキルを、実践を通して身につけます

特別サイト

Pickup研究室

キノコの分解力を応用してゴムの再資源化をめざす

キノコが持つ特殊な分解力を応用して、タイヤのような加硫したゴムの再資源化をめざしています。ゼミでは学生たちと、キノコの分解メカニズムの解析、そしてゴムが再資源化するプロセスの開発を同時に進めています。この研究の面白さは、誰もやっていないところにあります。世界でも類を見ない唯一無二の研究であり、すべてがオリジナル、先例のないパイオニアだといえます。研究は山あり谷ありでうまくいかないことも多々ありますが、学生には失敗してもすぐに結論を出さず、なぜダメなのかを徹底的に考えて、うまくいく方法を模索する習慣を身につけてほしいと思います。

特別サイト

佐藤 伸
准教授
バイオマス変換学
応用微生物学

▲トライ&エラーが成功への近道

Pickup研究室

微生物の力で下水からメタンを回収し、エネルギーを創出

下水処理などの水処理技術について研究しています。微生物の力を使った水処理方式の一つに「メタン発酵」があります。微生物が下水汚泥などの有機物を分解する際に発生するバイオガスにはメタンが含まれており、燃やすことでエネルギーに変えることができます。「下水からより多くのメタンを発生させるためにはどうすれば良いか?」、「様々な廃水や廃棄物を混ぜてメタン発酵を行うとどうなるか?」などを研究しています。下水は有用なバイオマス資源です。これからは処理・処分ではなく、再生・利用することが求められており、そのための研究は大変やりがいのあるものです。

特別サイト

戸苅 丈仁
准教授
上下水道工学
水環境工学

▲神戸市東灘処理場では下水処理場での新技術実証実験を見学しました

人間環境分野

人間が生活をするために構築した住まいをはじめ、都市、景観、まちづくり、地域資源、文化などの人間と社会をとりまく環境が自然と持続的に共生するあり方について学修します。住まい、都市、景観、まちづくり、地域振興などの計画・設計等に携わる民間企業や公共団体等での活躍を希望する学生向けです。

- ① 環境に配慮した暮らしを実現する居住空間を学びます。
- ② 持続的に利用できる可能性あふれる住居や都市を研究します。
- ③ 手描き製図とCADによる製図にも取り組みます。

Myゼミレポート

山口ゼミ
留岡 あみさん(香川県出身)
エゴマ栽培や商品開発を通じた地域活性化について研究

ゼミでは地域活性化について学んでいます。鳥取県の若桜地方で行われているエゴマ栽培を、地域の方たちと一緒に種まきから草取り、収穫、脱穀まで手がけています。大学祭などでは、エゴマを使った商品の販売も行いました。栽培した実は主におにぎりの具材やエゴマ油として使い、収穫した葉はおにぎりを包み、風味付けとして活用しました。卒論のテーマは、先生がいくつか方向性を示してくださっているので、その中から興味のあるものを見つけないかと思っています。例えば6次産業というものとは通常、1次産業から発生していくケースが多いのですが、3次から1次へと逆に働きかけるような取り組みがあると知りました。論文もそうした事例を中心に読んでいます。先生は学生の意思を尊重してくださるため、学生たちは自由に学んでいます。

▲ゼミの先輩やフィールドワークなどでの人とのつながりを大切にしています

Pickup研究室

農村に存在するナレッジの継承など地域の課題解決について考える

農村には、作物が不作の年でも収穫量を確保する栽培ノウハウや気候を読む知識など、言語化が難しい知識(ナレッジ)が数多く存在します。こうした知識の多くは重要性が高いにもかかわらず、次世代へ継承できていないことが課題となっています。他にも、交通空白地の拡大という課題もあります。高齢化が進む農村地域の公共交通機関はバスがほとんどですが、財政負担が非常に大きく、路線の廃止が検討されています。廃止後、地域の人の移動を支えるために何ができるのかについて研究しています。

山口 創 准教授
農村計画学 農業経営学

▲地域の方へのインタビュー調査の様子

Pickup研究室

分離した都市空間の機能をいかに共存させるかを考える

建築はそもそもミクスドユース(複合用途)が普通でしたが、近代建築では機能を単純化し、「住むところ」「働くところ」というように分離させてきました。しかし近年はコンパクトシティという概念もあるように、いろいろな機能をいかに共存させるかが注目されています。学生はゼミを通して身近にある広場や商店街といった空間を一つのケーススタディとして学ぶことができます。ゼミのモットーは「そこに立っていれば、そこでしか見えない風景が獲得できる」。体験する前には実感がわきませんが、調査などを体験することで何が到達できていて何が足りないかなどが見えてきます。

張 漢賢 教授
都市計画学 人間居住論

▲ディスカッションでお互いの発表を聞く

教職課程

中学・高校「理科」の教員を目指す学生向けです。
なお、教員免許資格の取得には教職に関する追加の単位が必要です。

- ① 生徒とのふれあいが好きで理科教育に熱意を持つ学生に最適な課程です。
- ② 教える土台となる物理、化学、生物、地学の基礎・応用をしっかり学びます。
- ③ 創造力が豊かで実験や実習のできる教員を目指します。

Myゼミレポート

千代西尾ゼミ
橋本 愛加さん(石川県出身)
みんなで支え合いながらよりよい授業を作っていく

中学の理科の教員をめざしています。模擬授業では、自分で授業内容や評価規準を考え、仲間たちを生徒に見立てて授業を行います。しっかり準備して模擬授業に臨んでも、計画通りにいかないこともあります。仲間たちから授業に対するフィードバックをもらうことで改善に活かしています。また、中学校の理科教員だったゼミの千代西尾先生から現場の話を伺うことで刺激を受けています。状況に応じた指導方法はもちろんですが、先生自身の趣味を活かした生徒への興味づけの仕方は、教員としての大きな強みになると思います。私もそんな引出しの多い教員になりたいです。

▲ゼミの千代西尾先生はとても多趣味で、話がおもしろいです

教員採用試験合格者

子どもたちが心を開いて、信頼できる教師を目指して

学校は子どもたちが楽しみに通う場所であってほしいと考えています。そのためには子どもたちが心を開いて接することができる教師の存在が不可欠です。3週間の教育実習では、実際に子どもたちと触れ合うなかで、目標とする教師としての在り方を確認できる有意義な時間を過ごすことができました。しかし、3週間という短期間で信頼関係を築くのはとても難しく、今後の課題のひとつとなりました。その状況下で心強かったのは、ゼミの藤田先生からいただいた「何かあればいつでも相談に乗るから」という言葉。「万が一何かあっても大丈夫」という心の支えになり、実習を乗り越えることができました。

棟安 大貴さん (兵庫県出身) 2022年度卒業

▲「勉強は楽しい」ことを伝えたい

教員採用試験合格者

子どもたちに将来思い出してもらえるような教員に

教員をめざしたのは、中学のときの理科の先生がきっかけです。大学では教職課程以外に環境学部で多彩な分野の先生から学べることで視野を広げることができます。そのため教育実習では、単に担当範囲だけを教えるのではなく、他分野の話を織り交ぜながら生徒に話しました。個性の異なる生徒と向き合うことは難しいですが、幅広い知識を活かして一人ひとりと向き合えたと思います。教員採用試験には合格しましたが、より専門性を深めるために教育大学の大学院へ進学することを決意。生徒たちからもらったメッセージ付きの色紙を励みに、子どもたちが人生のふとしたタイミングで思い出してくれるような教員をめざします。

林部 公靖さん (大阪府出身) 2022年度卒業

▲生徒一人ひとりと向き合う難しさも実感

環境学部長
えんどう ゆみこ
遠藤 由美子 特任教授

【専門】
エコハウス、生活環境学

住宅内で消費するエネルギーを考えることは身近でありながら地球環境に大きな影響力を持ちます。自然エネルギーを活用する設備と空間設計、エネルギー消費低減のディテールを探索し、住宅の寿命を延ばして活用することにつなげます。

副学部長
ねもと あきひこ
根本 昌彦 教授

【専門】
森林資源管理

私の関心は森林空間が持つ多様な役割を認識した上で、森林を持続可能な形で利用するための方策を示すことにあります。学生には問題を環境学・生態学的に把握すると同時に、経済学や社会学、政策科学的な面からアプローチすることを期待しています。

サステナビリティ研究所長
たじま まさき
田島 正喜 教授

【専門】
環境・エネルギーシステム論
水素製造システム
バイオマスエネルギー変換技術

バイオマスなどの再生可能エネルギーを用いた水素製造に関する研究を行っています。水素はCO₂を全く発生することなく使用できるため、環境に優しいエネルギーです。燃料電池自動車の燃料や、発電、熱利用にも使えます。興味深くないですか？

とがの たけと
戸蒔 丈仁 准教授

【専門】
水処理、汚泥処理、
水質保全下水道工学

皆さんの家のトイレ、キッチン、お風呂などからの生活排水は、下水処理場、浄化槽などの処理施設で処理され、一定の水質を確保した上で、公共用水域に排出されます。水質保全、水処理、汚泥処理の仕組みについて一緒に学びましょう。

ゆほら かずひろ
柚洞 一央 准教授

【専門】
地理学、ジオパーク
ジオツーリズム、
地域づくり

「普通」ってなんでしょう。場所が変われば、「普通」も変わります。場所の比較から、地球の気持ち、人の気持ちを考えています。プラタモリのように、地域を描く力を身に付けませんか？

さとう しん
佐藤 伸 准教授

【専門】
バイオマス変換学
応用微生物学

微生物は私たちの身近にたくさんいます。そのチカラを利用して未利用資源を有益なものに変換する研究に取り組んでいます。最近、ゴムを分解するキノコを鳥取で見つけました。このキノコの力が廃ゴムの再資源化に役立つのではないかと期待されています。微生物のチカラを活かして新しいモノを生み出す研究に、一緒に取り組んでみませんか？

あさかわ しげお
浅川 滋男 教授

【専門】
文化遺産学、住環境保全論
建築人類学

大学は工学部だったのですが、得意科目は世界史・地理・英語で、長い間文化財研究所で働きました。環境学部の人間環境プログラムには、歴史・考古・地理・民族等の専門家がいます。文系志向の方も安心して受験してください。

副学長・学生支援センター長
こばやし ともみち
小林 朋道 教授

【専門】
動物行動学、進化心理学

環境問題の改善のためには、様々な学問分野の研究、実践が必要です。4年間の学修で、環境問題に、理論的、実践的にぶつかるところを通して、自分の問題解決能力全体を高めて社会の様々な分野で活躍してもらいたいことを期待します。

人間形成教育センター副センター長
あらた てつじ
荒田 鉄二 教授

【専門】
環境哲学、文明論
持続性論

持続性問題という文明の危機を克服するには、危機の状況を正しく診断すること、その根本原因を明らかにすること、そして危機の状況と根本原因を踏まえたうえで解決策を探ることが必要です。共に学び、説得力のある解決策を提案していきましょう。

かどの あつお
角野 貴信 准教授

【専門】
土壌学、生態系生態学
生物地球化学

土壌がその母材である岩石などから生成するスピードに比べ、人が利用して劣化させてしまう速度があまりにも速く、そのアンバランスが問題になっています。いかにすればそのバランスを回復し、維持し続けられるのか、一緒に考えてみましょう。

きかわ たつゆき
佐川 龍之 准教授

【専門】
リモートセンシング、
人工知能、画像処理

今は多くの情報が溢れていますが、その中から重要な情報だけを選び出すのは簡単ではありません。大学で様々な教養や情報を分析するための基礎知識を学び、自分が本当に必要とする情報を集める力を身につけましょう。

とくだ ゆうき
徳田 悠希 准教授

【専門】
古生物学、深海生物学

現在の地球環境の成り立ちを理解し、未来の環境を予測するためには、過去を知る必要があります。私は化石や地層を調べることで、大地に刻まれた地球の歴史を読み解いています。一緒に地球環境の過去と未来を考えてみませんか？

地域イノベーション研究センター長・人間形成教育センター副センター長
よしなが いくお
吉永 郁生 教授

【専門】
海洋微生物学
微生物生態学

海の生態系は地球環境に大きな影響を及ぼしています。そして海の生態系は、植物プランクトンなどの微生物が主役です。陸地に住む我々にはなじみが薄い海からの視点、そして微生物の視点から、これからの地球環境を考えてみませんか？

副学長補佐
ちよん ほんしやん
張 漢賢 教授

【専門】
都市計画学、人間居住論

産業革命時代、先進国、途上国の都市居住問題・住環境整備について学び、徒歩で生活できるコンパクトシティの原型、職住一体を可能にする空間を持つショップハウス街区などを通して、長く使い続けられる都市生活空間の形成、仕組み、継承を研究します。

なかじ ひろゆき
中治 弘行 教授

【専門】
建築構造、耐震構造、
木質構造

日本には、古くから身近な材料として木材など自然にある素材を活用して、居住環境や生活に必要なものを賄ってきたという歴史があります。建物を構成する材料の木と土、それに必要な大工・左官技術、構造物の耐震安全性に関する研究を行っています。

こうだしの
甲田 紫乃 准教授

【専門】
エネルギー科学
グループ・ダイナミクス
環境社会心理学

当事者と研究者との協同的実践による活動を通して現状を改善する研究を、様々な分野（環境活動、環境教育、環境芸術など）で、学際的に行っています。地球や地域に貢献したい人、環境問題に取り組みたい人をお待ちしています。

しげた よしのり
重田 祥範 准教授

【専門】
局地気象学、生気象学
環境工学、地学教育

私たちは様々な大気環境の中で生活しています。周囲を取り巻いている大気の大気温度（気温）は測定することが困難なものの一つです。気温を測ってみたい人、そして大気の流れ（風）を見てみたい人、私と一緒に多彩な気象観測を楽しんでみませんか？

やまぐち そう
山口 創 准教授

【専門】
農村計画学、農業経営学

私の専門は農村計画学で、農村が抱える課題の解決や持続的発展の方策について社会科学的視点から研究しています。現在の農村には、解決すべき課題が山ほどあります。一緒に20年後、30年後の農村をデザインしましょう。

まむ さんよる
金 相烈 教授

【専門】
廃棄物工学

近年は資源やごみの埋立地の枯渇問題、環境汚染の問題などが深刻となり、大量生産、大量消費、大量廃棄型社会から循環型社会への転換が緊急の課題となっていますが、これらの問題をじっくり考え、解決策をともに考えてみませんか？

かきざ てつや
笠木 哲也 准教授

【専門】
植物生態学、送粉生態学

陸上植物の7割は送粉（花粉媒介）を昆虫に依存しています。そこで、送粉昆虫の種類や行動に着目しながら、植物の生態的特性及び交配システム進化について研究を進めています。まずは野外に出て、植物や昆虫の種名を覚えることから始めましょう。

もんぎ ひでゆき
門木 秀幸 准教授

【専門】
環境分析
廃棄物・
リサイクル工学

廃棄物のリサイクルを研究しています。廃棄物には環境へのリスクだけでなく、様々な資源が眠っています。リサイクルの研究は宝探しのようです。探し出して利用する、そのための技術や方法を一緒に考えていきましょう。

まえた てつお
前田 哲雄 教授

【専門】
道徳教育、学校経営

教職は子どもと俱（とも）に学び俱に進むやりがいのあるものです。本学においても、中学・高校（理科）の教員免許が取得できます。環境の世紀と言われる今、本学で学びそれを学校教育で活かしてみませんか？

ちよにしお ゆうじ
千代西尾 祐司 教授

【専門】
学習指導
ICT活用による教材開発

「学び」というものの考え方が変わってきています。「教え・教えられる」という姿から「学ばせ・学ぶ」という、学ぶ人が主体となる学びを作るために多様な知見を学びます。ICT端末も学びの道具として使い、より良い学びを作るために、いろいろな方法を一緒に考えましょう。

かとう さだひさ
加藤 禎久 准教授

【専門】
緑地計画学
エコロジカル・プランニング
グリーンインフラ

洪水や土砂崩れなどの被害を抑え、レジリエントな社会を構築するには、従来の土木インフラを補完する形で自然の恵みを活かしたグリーンインフラの活用が求められています。一緒に気候変動に適応した緑地・ランドスケープ計画を考えてみませんか？

おおた たろう
太田 太郎 准教授

【専門】
水産資源生物学、漁業制度
地域連携

豊かな鳥取の自然の中で沢山の経験を積みながら、楽しく学んでいきましょう。私は海や川をフィールドとした研究をしています。一緒に山積み。新発見の喜びを分かち合いたいと思います。

やまもと あつし
山本 敦史 准教授

【専門】
環境化学、分析化学

皆さん「健全な物質循環」という言葉を耳にしたことがありますか？環境分野において近年重視されているキーワードです。一緒に環境や暮らしの中で起こっている様々な物質の動きを調べてみませんか。普段の景色が違って見えてくるでしょう。

教職課程

ふじた えつこ
藤田 恵津子 准教授

【専門】
臨床心理学、発達心理学

カウンセリングにおいて、語りのプロセスがこころの回復に寄与することを研究しています。また、「こころ」の健康に関する心理教育は、カウンセリングと同様に大切なことであり、現在、学校園や社会人向けの研修などで取り組んでいます。

かわぐち ゆみこ
川口 有美子 准教授

【専門】
学校経営学、教育行政学

教育原理や教育の制度と経営、教育行政学などの科目を開講しています。授業では、教育という社会的な営みについてマクロからミクロな視点まで、様々な角度から迫り、「教育学」の探究を試みます。